

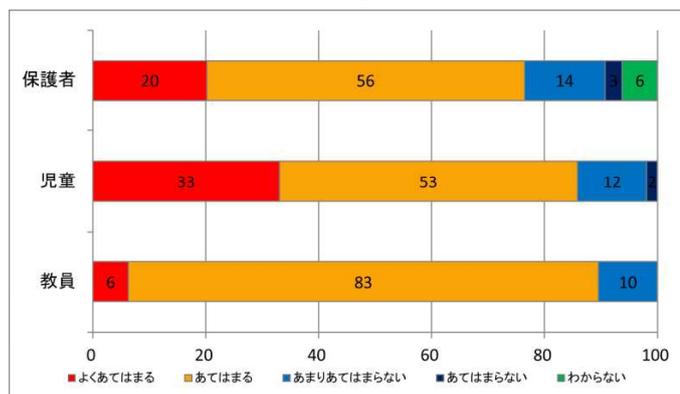
令和4年度 中央区立京橋築地小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立京橋築地小学校 所在地：中央区築地2-13-1
 校長名：平山 尚彦
 児童数：326名 学級数：11学級 教員数：25名 職員数：7名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

※アンケート回答数 保護者：208 児童(4～6年)：106 教員：17

重点目標1：確かな学力を育てる

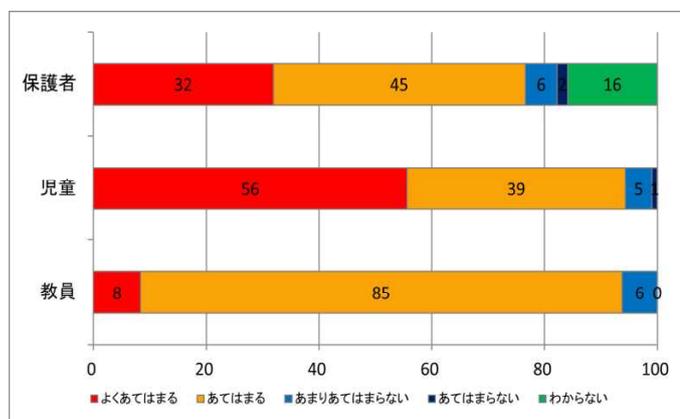


保護者アンケートの肯定的評価は76%と昨年度より2ポイント上がり、特に「学力の定着や伸長」にかかわる質問や「詩の創作など表現する力」の質問に対して「よくあてはまる」「あてはまる」の回答が増えました。放課後補習等の継続的な実施や個人面談における学力調査についての説明などの取組を評価していただけたと受け止めております。一方で、「読書量や文章を読み取る力」の質問に対しては肯定的な回答が約2ポイント下がっています。実際に子供たちの読書量が増えていることや教員や保護者の読み聞かせなどの取り組みに

ついてご家庭に伝えることが不十分であったととらえています。

今後も子供たちの基礎的・基本的な学力をはじめ、年間読書量の目標達成や文章を読み解く力、詩の創作活動を含めた表現力を高める指導の充実など、個々の学習状況に応じた支援を踏まえ、これまで取り組んできたことをさらに工夫、改善して取り組んでまいります。

重点目標2：互いに認め合い、思いやる人間関係を育てる

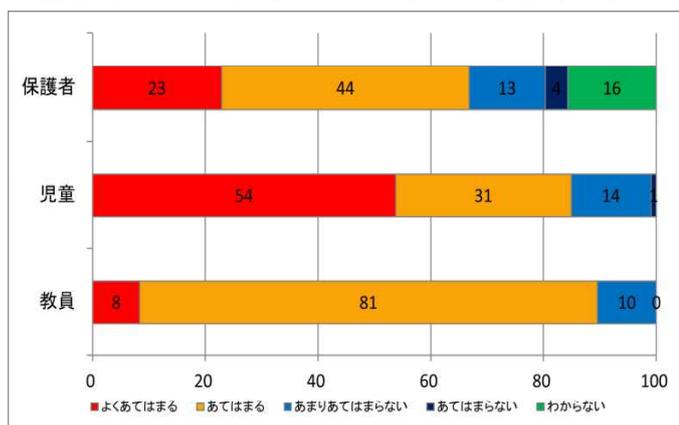


今年度は、アンケートの設問も昨年の1項目から従来の3項目まで戻して実施いたしました。年が明けて感染状況が改善されつつありますが、年間を通してみるとまだまだ学習活動に制限を設ける場面もありました。そのような状況の中で異学年間の交流や保育園・幼稚園児との交流活動については十分とは言えませんが、対策を講じた上で徐々に再開をしてきました。また、「話し合い活動を通じた人間関係の構築」についての質問では、昨年度より肯定的評価が約3ポイント下がりました。

重点目標2の達成には「異年齢の交流による社会性の育ち」が大切になります。特別活動の充実と共に、様々な交流活動が「主体的に参加し、主体的に役割を担い、その大切さを実感する場」となり、お世話される側からお世話する側へという役割の推移を伴いつつ、ゆっくりと長期にわたって継続していくことが重要であると考えております。

今後も、全校朝会や児童集会など全校児童で集まる活動や、縦割り班活動などの異学年、幼稚園・保育園児との交流活動をできる限り実施し、本校のよき校風である学年を超えた子供たちのつながりをさらに高めてまいります。

重点目標3：丈夫な体とたくましい心を育てる



3年ぶりにほぼ例年通りの水泳学習を行い、館山臨海学校を実施することができました。また、持久走も1月下旬からの休み時間や体育学習での取り組みを経て、持久走記録会で元気に走る姿が見られました。

「活動的な身体活動(11歳)週2回以上実施者の国際比較」をみると、主要先進国の中で日本はとても低い水準になります。体力の低下が懸念される中で、体育学習においても友達との比較に偏らず、自らの伸びを感じられる授業の工夫を行うことで、少しでも運動を好む児童を育てていきます。また、

子供が靴のひもを結べない、スキップができないなど、体を上手にコントロールできない、あるいはリズムをとって体を動かすことができないといった、身体を操作する能力の低下が全国的に指摘されています。動作コーディネーション能力(神経系の発達)を念頭に基礎的な動きをしっかりと指導していきます。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケートにおいては「わかりやすい授業」や「基礎学力が身に付く指導」への質問、児童アンケートでは「授業内容の理解」「学校に行くのが楽しい」「学校行事」に関する質問では、昨年度の結果に比べ肯定的評価が増えました。朝学習でポイントを絞って学習したことや放課後補習の取り組みを継続したこと、さらに「わかる・できる」を目指した授業づくりを校内研究として推進したことによるものと考えております。保護者アンケートは全18項目中13項目で肯定的評価が80%以上となりました。

「児童の悩みやトラブル」に関する質問の肯定的評価は昨年度より6ポイント減少して74%でしたが、児童アンケートの同様の質問では13ポイント増えて73%という結果となりました。今後も引き続き、全職員で各学級の子供たちの様子について情報共有し、共通理解のもとで課題解決にあたっています。

自由記述の回答では、多くの励ましのお言葉のほか、様々な改善意見をいただきました。すぐに行うべきことから次年度の計画まで、よりよい学校づくりのために生かしてまいります。

3 今後の改善方策

アンケート結果や本年度の反省を踏まえ、今後の改善のための方策として、以下のことに取り組んでまいります。また、昨年度よりオンラインによるアンケートとさせていただきましたが、昨年度6割減となった回答数が今年度は大幅に増加となりました。今後も回答率100%を目指して工夫・改善を図って参ります。

○確かな学力を育てるために

学習指導の効果を高めるタブレット端末を含めたICT機器の活用を推進し、教師の授業技術との関連を意識していきます。活用の場面やタイミング、活用する上での創意工夫が教師の授業技術に大きく関わっていると考えられるため、校内研究や授業実践を行うことで各教科の中に定着させ、子供たちが主体的な学習への取組を通して着実に学力を身に付けられるようにしていきます。

○互いに認め合い、思いやる人間関係を育むために

道徳科では子供たち一人一人が、道徳的な課題を自分自身の問題として捉え向き合う授業づくりを目指します。また、特別活動では更なる改善と充実を目指し、異学年や幼稚園・保育園児との交流活動もできる限り実施していきます。授業形態においては、言語活動の充実を核とした問題解決型学習を推進し、多様な価値観をもつ人と協力・協働し問題を解決できる子供を育てていきます。

○丈夫な体とたくましい心を育てるために

求められる体力には、運動をするための体力と健康に生活するための体力の二つが考えられます。心と体を一体としてとらえ、体力を向上させていくことにより、精神的な面も充実していくことに配慮していきます。そのためにマイスクールスポーツを中心に、年間を通して運動に取り組む意欲や習慣を維持し、体力や運動能力の向上に取り組めます。また、学校外も含めた子供たちを取り巻く環境にも着目し、歩いたり、外で遊んだりするなどの日常的な身体運動が減少することができるだけないよう学習の中でも取り上げていきます。